

## R6 菅原克彦氏 抄録

今後のデジタルデンティストリーにおいて、オーラルスキャナー（IOS）の普及は大きなターニングポイントになると考えております。IOSにより患者情報がデータ化され、チェアサイドとラボサイドの情報共有のスピードアップやインプラント埋入の多角的なシミュレーションが可能となったことは大きな進化だと思います。一方、デジタルデータからの補綴装置の製作フローには、いくつかの問題になる点も存在します。本講演では、機器の機能性や日々のワークフローから歯科技工におけるデジタルマニュファクチャリング（DM）の課題の解決を参加者の皆さんと一緒に考える機会にしたいと思います。